

# 2021年3月期（2020年度） 決算説明会

代表取締役社長 降旗喜男

2021年5月12日

# 決算サマリー

## 営業利益（連結）

2021年3月期 当初計画：△4,600百万円 ⇒ 実績：1,505百万円

- 新型コロナウイルス感染症の影響によりデジタルプロモーションを活用
- CG0070（腫瘍溶解性ウイルス療法）マイルストーン支払いタイミングの繰延べ
- KDT-3594（パーキンソン病治療薬、創製品）導出契約一時金受領
- ベオーバ（過活動膀胱治療薬）、ダルベポエチンアルファBS（腎性貧血治療薬）の売上拡大

2022年3月期計画：△2,600百万円

- 中間年の薬価改定
- CG0070 マイルストーン支払い
- 複数の導入品の開発進捗に伴うマイルストーン支払い

## 後期開発ステージプロジェクト

- |                         |             |      |
|-------------------------|-------------|------|
| ● アバコパン（ANCA関連血管炎治療薬）   | 承認申請中       | （日本） |
| ● リンザゴリクス（子宮筋腫治療薬）      | 承認申請中       | （欧州） |
|                         | 2021年後半申請予定 | （米国） |
| ● カロテグラストメチル（潰瘍性大腸炎治療薬） | 申請準備中       | （日本） |
| ● ロバチレリン（脊髄小脳変性症治療薬）    | 申請準備中       | （日本） |
| ● ホスタマチニブ（ITP治療薬）       | 第Ⅲ相         | （日本） |
| ● ジフェリケファリン（そう痒症治療薬）    | 第Ⅲ相         | （日本） |
| ● CG0070（腫瘍溶解性ウイルス療法）   | 第Ⅲ相         | （日本） |

# 2021年3月期報告〔連結〕

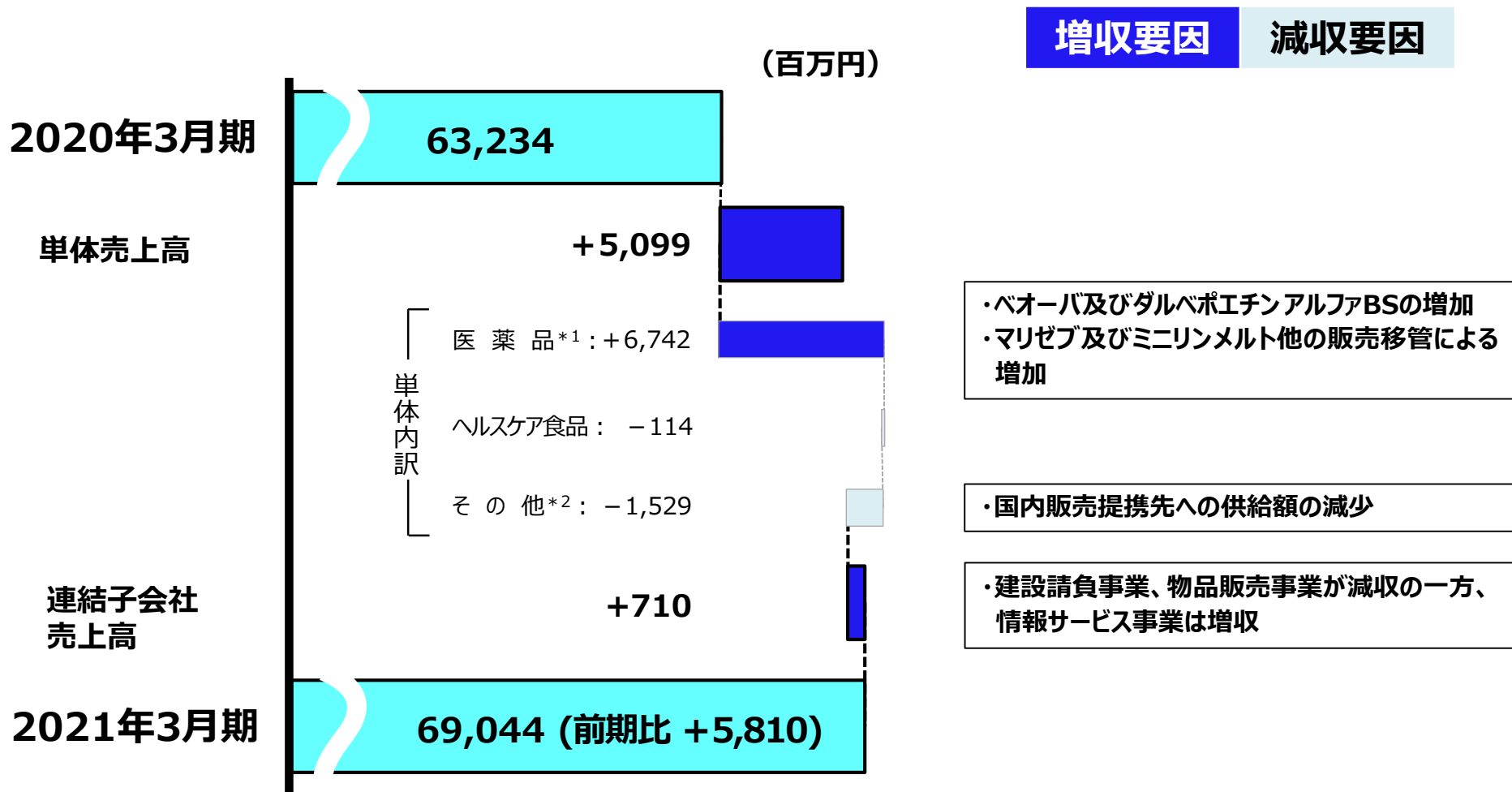
	2020年3月期		2021年3月期			前期比
	実績 (百万円)	構成比	計画 <sup>*2</sup> (百万円)	実績 (百万円)	構成比	
売上高	63,234	100.0%	68,000	69,044	100.0%	9.2%
(内キッセイ薬品単体)	(51,308)		(56,700)	(56,407)		(9.9%)
売上原価	28,328	44.8%	36,200	36,322	52.6%	28.2%
売上総利益	34,905	55.2%	31,800	32,722	47.4%	△ 6.3%
販管費	33,048	52.3%	31,000	31,217	45.2%	△ 5.5%
(内研究開発費)	(10,767)	(17.0%)	(10,000)	(9,626)	(13.9%)	(△ 10.6%)
営業利益	1,857	2.9%	800	1,505	2.2%	△ 19.0%
経常利益	2,429	3.8%	2,100	3,476	5.0%	43.1%
当期純利益 <sup>*1</sup>	2,817	4.5%	4,600	5,285	7.7%	87.6%
(包括利益)	(12,646)			(30,762)		

\*1：当期純利益は「親会社株主に帰属する当期純利益」

\*2：2021年3月期第2四半期決算発表時の公表値

補足資料 P2、3、8 参照

# 連結売上高の前期比較（実績）



\* 1 : 原薬・バルク輸出含む

\* 2 : 国内販売提携先供給額、技術料売上の合計額

# 連結当期純利益の前期比較（実績）

(百万円)

増益要因

減益要因

2020年3月期

2,817

変動内訳	売上総利益	-2,182
	研究開発費	+1,141
	他販管費	+689
	営業外損益	+1,399
	特別損益	+1,798
	法人税 等	-378

・医薬品事業の売上原価率の上昇により減少

・主として臨床試験費用が減少

・販売費、一般管理費が減少

・有価証券評価益を計上

・投資有価証券売却益を計上

2021年3月期

5,285(前期比 +2,467)

# 2022年3月期計画〔連結〕

	2021年3月期		2022年3月期		前期比
	実績 (百万円)	構成比	計画 (百万円)	構成比	
売上高	69,044	100.0%	63,500	100.0%	△ 8.0%
(内キッセイ薬品単体)	(56,407)		(53,000)		(△6.0%)
売上原価	36,322	52.6%	34,200	53.9%	△ 5.8%
売上総利益	32,722	47.4%	29,300	46.1%	△ 10.5%
販管費	31,217	45.2%	31,900	50.2%	2.2%
(内研究開発費)	(9,626)	(13.9%)	(9,500)	(15.0%)	(△1.3%)
営業利益	1,505	2.2%	△ 2,600	—	—
経常利益	3,476	5.0%	△ 1,300	—	—
当期純利益*	5,285	7.7%	3,300	5.2%	△ 37.6%

\*：当期純利益は「親会社株主に帰属する当期純利益」

補足資料 P2、3、8 参照

- ベオーバ、ダルベポエチンアルファBSの出荷調整や薬価改定の影響を受ける中で、新製品の育成・市場導入、研究開発への投資を継続的に行うため、業績は一時的に悪化
- 金融資産を有効活用し、投資有価証券売却益を特別利益に計上

# 中期経営計画PEGASUS 基本方針／基本戦略

## 1. 国内売上の拡大

- 新製品群の売上拡大
- 開発テーマの発売と製商品導入による製品ラインナップの拡充
- ヘルスケア事業の収益拡大

## 2. 海外収益基盤の強化

- 創製品リンザゴリクス（一般名）による新たな海外収益の獲得
- 新たなライセンスアウト

## 3. 開発パイプラインの拡充

- 低分子にフォーカスした創薬研究の推進
- 領域戦略に合致したライセンスイン

## 4. 経営環境の変化に対応する経営基盤の強化

- ガバナンス体制の更なる強化
- コンプライアンスの遵守
- 高品質製商品の安定供給と原価低減
- 次代を担う人材の育成
- コスト構造の適正化
- ESG／SDGsの推進

# 主要医薬品販売計画

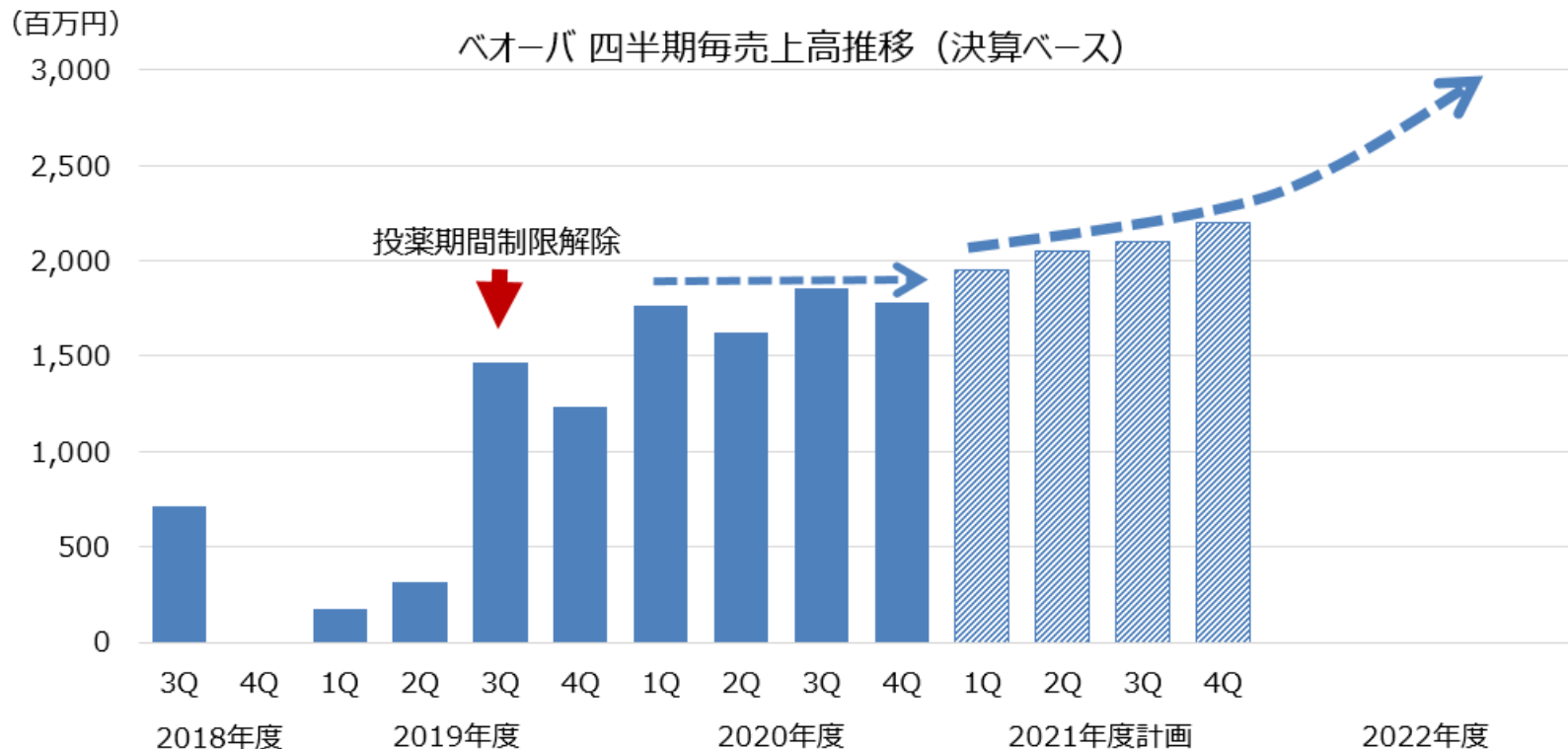
(百万円)

	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期計画	前期比
デスモプレシン製剤 ミニリンメルト、他	-	3,464	4,000	15.5%
高リン血症治療薬 ピートル	5,752	5,885	6,600	12.1%
糖尿病治療薬 マリゼブ	-	1,547	1,700	9.9%
糖尿病治療薬 グルバス	4,501	4,308	4,000	△ 7.1%
過活動膀胱治療薬 ベオーバ	3,185	7,024	8,300	18.2%
腎性貧血治療薬 ダルベポエチン アルファBS	812	4,883	3,500	△ 28.3%
医薬品売上高	41,397	48,140	45,500	△ 5.5%

- ミニリンメルト、ピートル、マリゼブ、グルバス・・・育成に注力
- ベオーバ、ダルベポエチンアルファBS・・・製造元からの供給量に応じた出荷調整を継続



# 過活動膀胱治療薬 ベオーバ®



- 2019年12月の投薬期間制限解除以降、処方量が急拡大し、出荷調整を実施
- 2022年度の出荷調整解除に向け、製造元の杏林製薬株式会社と連携し対応を図る

# 開発プロジェクトの進捗状況

★ : 創製品

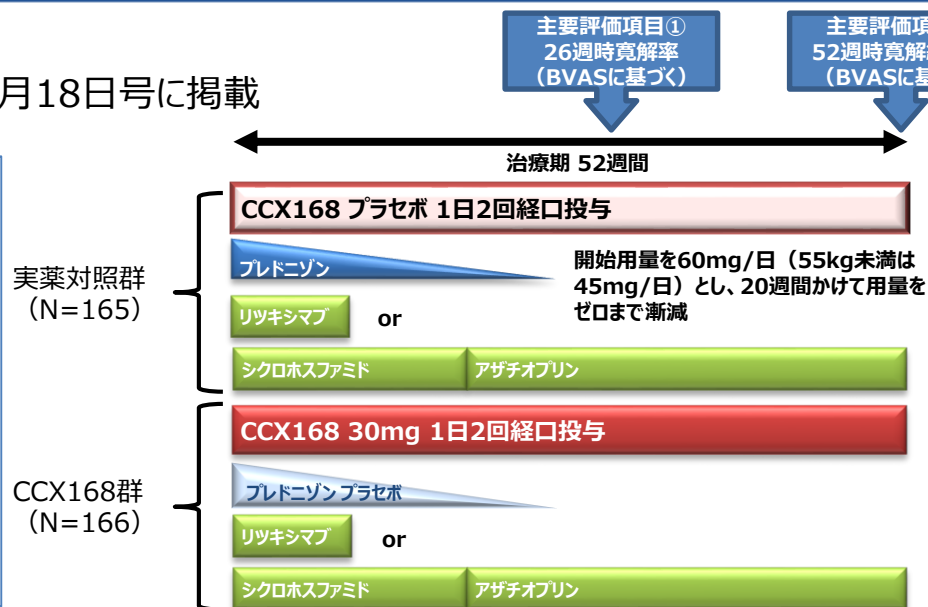
一般名／開発番号	予定適応症	開発ステージ					
		Phase			申請準備中	承認申請中	備考
		1	2	3			
アバコバン ／CCX168	顕微鏡的多発血管炎、 多発血管炎性肉芽腫症	■	■	■	■	■	
カロテグラストメチル ／AJM300	潰瘍性大腸炎	■	■	■	■		
ロバチレリン ／KPS-0373	脊髄小脳変性症	■	■	■	■		
ホスタマチニブ ／R788	慢性特発性血小板減少性紫斑病	■	■	■			
ジフェリケファリン ／MR13A9	透析患者におけるそう痒症	■	■	■			
CG0070	筋層非浸潤性膀胱がん	(国際共同)	■	■			(CG Oncology社と共同)
★ リンザゴリクス ／KLH-2109	子宮筋腫	(欧州)	■	■	■	■	(ObsEva社が実施)
		(米国)	■	■	■		(ObsEva社が実施)
	子宮内膜症	(欧米)	■	■	■		(ObsEva社が実施)
		(国内)	■	■			
★ KDT-3594	パーキンソン病	(中国、他)	■				(Affamed社が実施)
		(国内)	■				
★ KSP-0243	炎症性腸疾患	■					

# 補体 C5a受容体阻害剤 アバコパン（一般名） 国際共同第Ⅲ相臨床試験（ADVOCATE試験）の結果

第Ⅲ相国際共同治験（ADVOCATE試験）の結果が、  
The New England Journal of Medicine 2021年2月18日号に掲載

## 《ADVOCATE試験概要》

- ▶ 試験デザイン：二重盲検比較試験
- ▶ 実施国：日本を含む世界20カ国
- ▶ 対象：ANCA関連血管炎（顕微鏡的多発血管炎〔MPA〕、多発血管炎性肉芽腫症〔GPA〕）患者
- ▶ 対照：標準治療（副腎皮質ステロイド）
- ▶ 主要評価項目：BVAS（バーミンガム血管炎活動性スコア）による投与26週時の寛解率及び投与52週時の寛解維持率



主要評価項目	アバコパン群 (N = 166)	対照群 (N = 164) (高用量ステロイド群)	P値 アバコパンvs対照群
寛解率 (26週時)	72.3%	70.1%	P<0.001、非劣性
寛解維持率 (52週時)	65.7%	54.9%	P=0.007、優越性

## 《ADVOCATE試験結果》

<有効性>

- アバコパン群は、対照群に対し、26週時寛解率における非劣性及び52週時寛解維持率における統計学的に有意な優越性を示した。

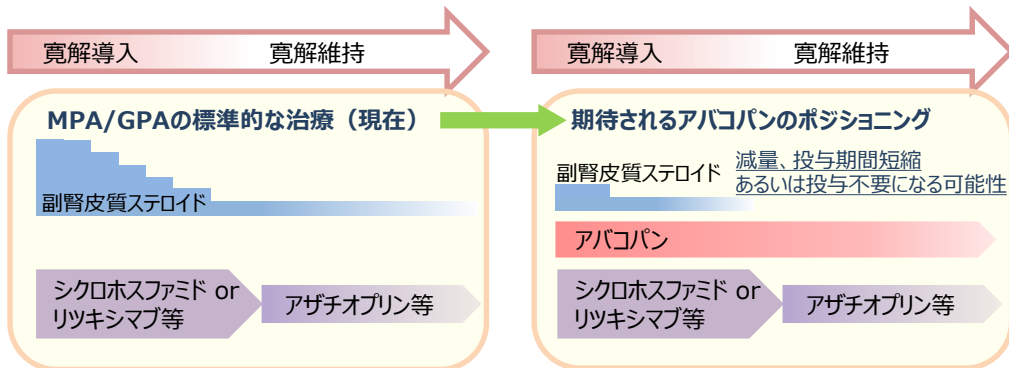
<安全性>

- アバコパン群は、対照群と比較して概ね良好な忍容性を示し、副腎皮質ステロイドに関連する毒性スコアの有意な減少を示した。

# 補体C5a受容体阻害剤 アバコパン（一般名） 市場において期待されるポジショニング

◆ 予定適応症： 抗好中球細胞質抗体（ANCA）関連血管炎〔AAV〕  
（顕微鏡的多発血管炎〔MPA〕、多発血管炎性肉芽腫症〔GPA〕）

期待されるポジショニング



日本の患者数：12,365人（難病指定）  
（MPA 9,486人、GPA 2,879人）  
（特定医療費〔指定難病〕受給者証所持者数〔2019年度〕）

海外の状況：

- 米国ケモセントリクス社創製
- 米国、欧州にてオーファンドラッグ指定（日本は2019年3月指定取得）
- 米国、欧州及び日本において承認申請中

- AAV（抗好中球細胞質抗体〔ANCA〕関連血管炎）は血管自体に炎症が起こることで血管が障害され、虚血や壊死により腎障害など様々な臓器障害が生じる重篤な難治性疾患である。発症には自己抗体であるANCAが関連している。AAVはMPA（顕微鏡的多発血管炎）、GPA（多発血管炎性肉芽腫症）及びEGPA（好酸球性多発血管炎性肉芽腫症）に分類される。MPA及びGPAに対する治療は血管の炎症を消失させる寛解導入と、それを維持する寛解維持に分類される。寛解導入の標準治療は高用量の副腎皮質ステロイド（以下、ステロイド）とシクロホスファミドまたはリツキシマブ等との併用である。寛解維持の標準治療は低用量ステロイドとアザチオプリン等との併用である。

- アバコパンは経口の補体C5a受容体阻害剤である。免疫反応を担う補体C5aの産生はMPA及びGPAの炎症に深く関わっていることから、アバコパンは既存薬と異なる新たなメカニズムの治療薬として期待される。現在の標準治療の中心であるステロイドは有効性を示すが、臨床的に問題となる副作用が高頻度に認められるアンメットニーズがある。第Ⅲ相臨床試験において、アバコパン治療群は標準治療群に対し、26週の寛解率で非劣性及び52週の寛解維持率で統計学的に有意な優越性を示した。アバコパン治療群は標準治療群と比較して概ね良好な忍容性を示し、副腎皮質ステロイドに関連する毒性スコアの有意な減少を示した。アバコパンはステロイドの減量、投与期間の短縮あるいはステロイドの投与を不要とすることが可能な薬剤として高い有用性が期待される。

# カロテグラストメチル（一般名）の開発推進

## ◆ 予定適応症：潰瘍性大腸炎

- EAファーマ株式会社より導入
- $\alpha 4$ インテグリン阻害作用を有する経口投与可能な低分子化合物
- 第Ⅲ相臨床試験（AJM300/CT3）において主要評価項目を達成
  - 対象：基本治療薬として5-アミノサリチル酸製剤を用いても効果不十分または不耐の中等度活動期の潰瘍性大腸炎患者 203例
  - 試験デザイン：プラセボ対照二重盲検比較試験
  - 主要評価項目：Mayo Score（メイヨースコア）を用いた投与8週時の改善率
  - 結果の概略：
    - ・ 主要評価項目においてプラセボ投与群に対する優越性が示された。
    - ・ 主な有害事象は、上咽頭炎、頭痛、悪心等であった。
- 本試験の結果の詳細は、今後の国際学会等で発表する予定

# ロバチレリン（一般名）の第Ⅲ相検証試験の概要

## ◆ 予定適応症：脊髄小脳変性症（甲状腺刺激ホルモン放出ホルモン〔TRH〕作用、導入品／塩野義製薬）

- 第Ⅲ相検証試験（KPS1301試験）成績に基づき、追加の第Ⅲ相検証試験（KPS1305試験）を実施
- 主要評価項目は、運動失調評価指標であるSARA（Scale for the Assessment and Rating of Ataxia）の合計スコア変化量
- 第Ⅲ相検証試験（2試験）の結果に基づくPMDAとの協議を踏まえ、承認申請準備中

### 《第Ⅲ相検証試験概要》

▶ 対象患者：小脳性運動失調を主とする病型（SCA6、SCA31、CCA）

試験	試験デザイン			SARA個別スコア基準
KPS1301試験 ・86施設 ・411名（投薬：374名）	前観察期	28週間投与（有効性評価：24週）	後観察期	歩行 : 2点以上6点以下 立位 : 基準なし 指追い試験 : 基準なし 鼻-指試験 : 基準なし 回内・回外運動 : 基準なし
	プラセボ	Placebo	既存治療	
	プラセボ	ロバチレリン1.6 mg	既存治療	
	プラセボ	ロバチレリン2.4 mg	既存治療	
KPS1305試験 ・62施設 ・241名（投薬：203名）	前観察期	24週間投与（有効性評価：24週）	後観察期	歩行 : 2点以上6点以下 立位 : 2点以上 指追い試験 : 左右1点以上 鼻-指試験 : 左右1点以上 回内・回外運動 : 左右1点以上
	プラセボ	Placebo	既存治療	
	プラセボ	ロバチレリン2.4 mg	既存治療	

Nishizawa M, Onodera O, Hirakawa A, et al. J Neurol Neurosurg Psychiatry 2020; 91:254–262.より作成

### 〈SARAについて〉

- 8項目から構成され、患者の状態を医師がスコアリングする評価指標。計40点満点で点数が高いほど重症であることを示す。

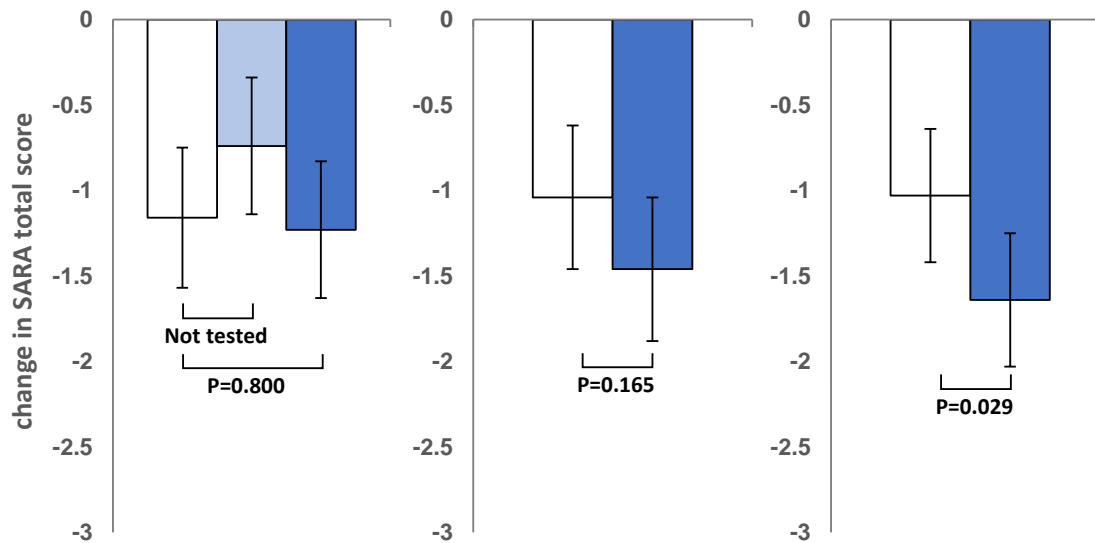
歩行	立位	坐位	言語	指追い試験	鼻-指試験	手の回内・回外運動	踵-すね試験	合計
8点	6点	4点	6点	4点	4点	4点	4点	40点

# ロバチレリン（一般名）の第Ⅲ相検証試験の結果

## 《第Ⅲ相検証試験結果》

SARA個別スコア基準	(A) KPS1301試験	(B) KPS1305試験	(C) 併合解析
歩行	2点以上6点以下	2点以上6点以下	2点以上6点以下
立位	基準なし	2点以上	2点以上
指追い試験	基準なし	1点以上（左右）	1点以上（左右）
鼻-指試験	基準なし	1点以上（左右）	1点以上（左右）
手の回内・回外運動	基準なし	1点以上（左右）	1点以上（左右）

KPS1301試験及びKPS1305試験のいずれの第Ⅲ相試験においても、主要評価項目である運動失調を評価するためのSARA合計スコアの変化量は、プラセボ群と比べて統計学的に有意な改善を認めなかった（A及びB）。



KPS1301試験及びKPS1305試験の2試験のうち、KPS1305試験の組み入れ基準に合致する重症度が高い患者層（KPS1301試験の一部 + KPS1305試験）を対象とした併合解析（事後解析）では、SARA合計スコア変化量は、プラセボ群と比べて統計学的に有意な改善を認めた（C）。

	患者数	SARA合計スコア (投与前)	患者数	SARA合計スコア (投与前)	患者数	SARA合計スコア (投与前)
プラセボ	123	12.78	101	14.70	138	15.36
ロバチレリン 1.6 mg	124	13.31	—	—	—	—
ロバチレリン 2.4 mg	122	12.72	101	15.03	140	15.65

本薬の運動失調症状に対する効果は、重症度の高い患者さんで効果が明確になる傾向が認められている。ADL（Activities of Daily Living、日常生活動作）の低下に伴い介助が必要となり始める患者さんの症状改善に貢献できる可能性がある。

Nishizawa M, Onodera O, Hirakawa A, et al. J Neurol Neurosurg Psychiatry 2020; 91:254–262.より引用、一部改変

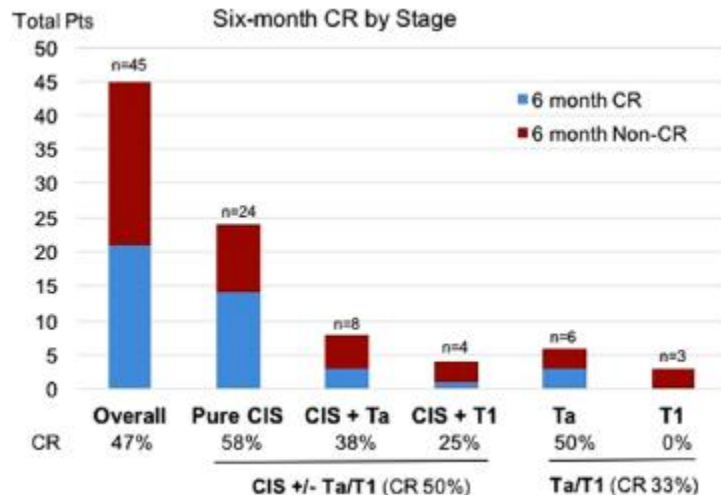


# CG0070 : 腫瘍溶解性ウイルス療法の開発推進

## 《国際共同第Ⅲ相臨床試験概要》

- 試験種類：単群非盲検試験
- 対象：BCG治療無効の上皮内がんを有する筋層非浸潤性膀胱がん患者
- 投与方法：週1回投与×6回（6ヵ月以降は週1回投与×3回）で膀胱内投与
- 主要評価：完全奏効率（Complete response（CR））
- 症例数：110例
- 実施国：日本、米国、オーストラリア、韓国、台湾

## 《第Ⅱ相臨床試験（BOND2試験）中間解析結果》



- 6ヵ月後のCR率は47%
- 主な有害事象は、膀胱痙攣36%、血尿28%、排尿障害25%、排尿切迫22%で、グレード3に関連する有害事象は排尿障害3%、低血圧1.5%、グレード4及び5に関連する事象は認められていない。

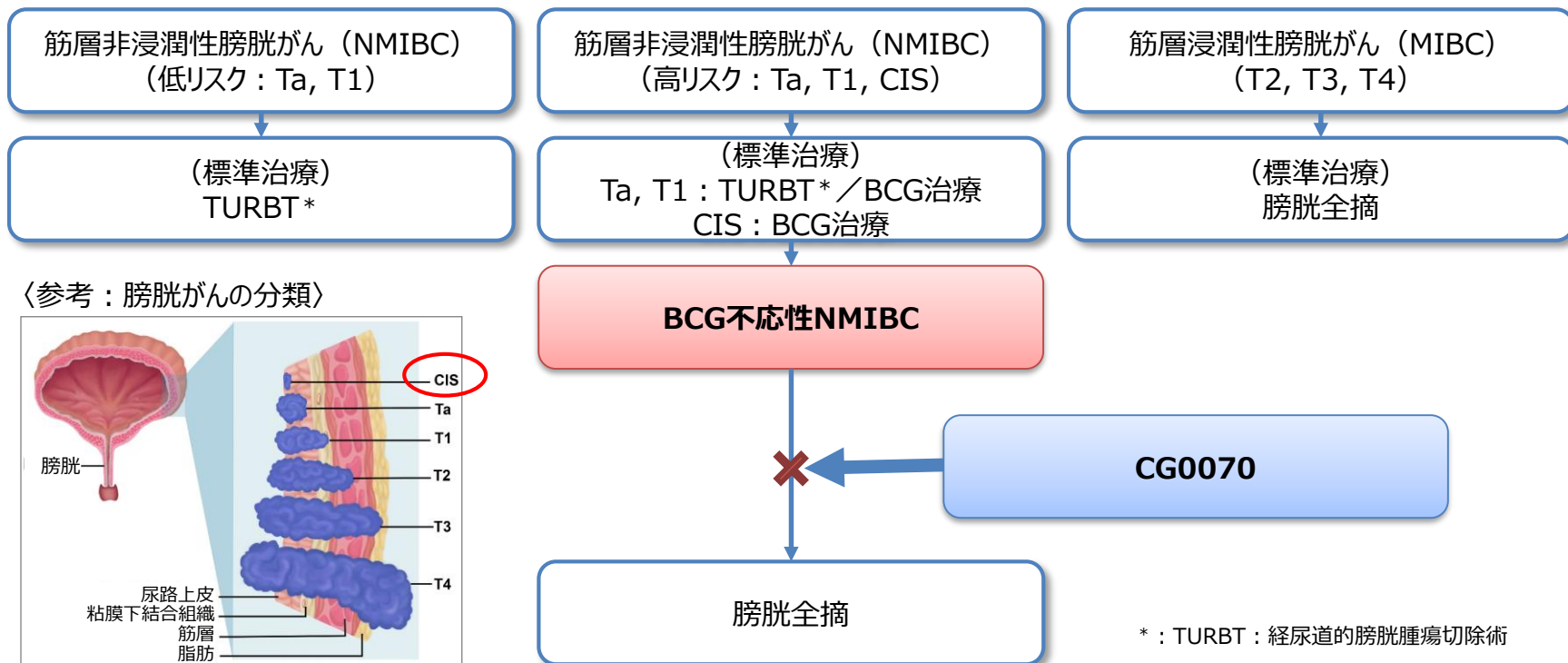
[Urologic Oncology: Seminars and Original Investigations Volume 36, Issue 10, October 2018, Pages 440-447]



# CG0070 : 腫瘍溶解性ウイルス療法のポジショニング

## ◆ 予定適応症 : 筋層非浸潤性膀胱がん

### 《期待されるポジショニング》



- 膀胱がん全体の患者数 : 24,300人 (国立がん研究センター がん罹患数予測 (2020年) )
- 膀胱がんはNMIBCとMIBCに分けられ、上皮内がん (CIS) は上皮内のみに限局するもので高リスク群に分類される
- CG0070は、BCG治療に反応せず、膀胱全摘の対象となるNMIBC患者に対して投与
- 膀胱全摘は患者のQOLに大きな影響を及ぼしており、CG0070の投与により膀胱全摘を回避できる可能性がある

# 欧米におけるリンザゴリクス（一般名）の開発推進

## ◆ 予定適応症：子宮筋腫・子宮内膜症（当社創製 経口GnRHアンタゴニスト）

- 日本など一部のアジアを除く全世界における独占的開発・販売権をObsEva社（スイス）にライセンスアウト（2015年11月）
- ObsEva社による子宮筋腫を適応症とした欧州医薬品庁への承認申請（2020年11月）
- ObsEva社により子宮筋腫を適応症とした米国食品医薬品局への承認申請予定（2021年後半）

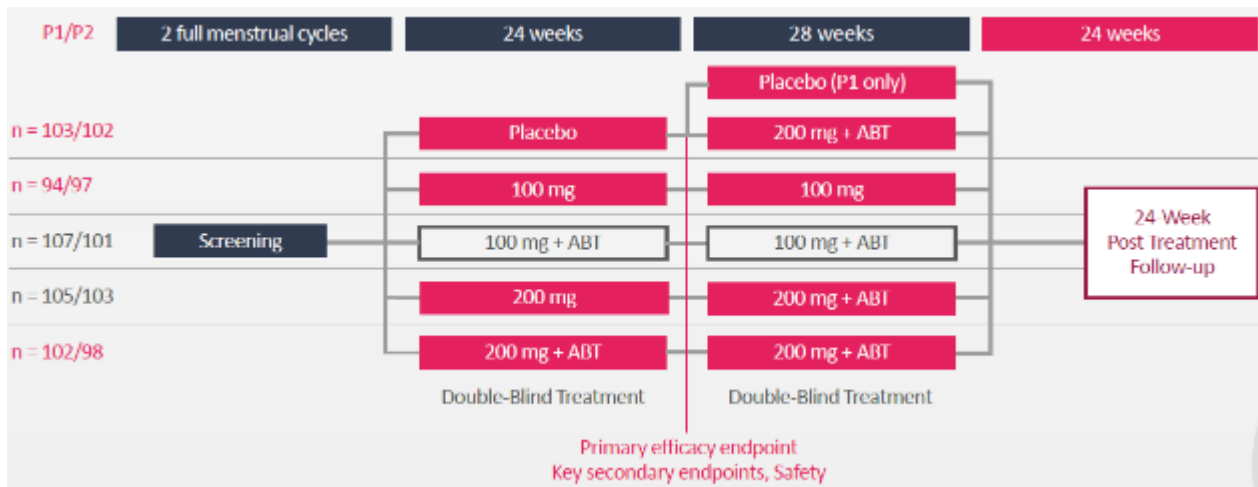
### 《ObsEva社による海外開発状況》

	Phase 1	Phase 2	Phase 3	Next Milestones
<b>YSELTY®</b> <b>(LINZAGOLIX)</b> Oral GnRH receptor antagonist			Uterine Fibroids – Ph3 PRIMROSE 2 (EU & US)	<b>欧州申請</b> MAA for uterine fibroids expected approval (Q4:21)
			Uterine Fibroids – Ph3 PRIMROSE 1 (US)	<b>米国申請</b> NDA submission (Q3:21)
			Endometriosis – Ph3 EDELWEISS 3 (EU & US)	EDELWEISS 3: Primary endpoint readout expected (Q4:21)

# 欧米におけるリンザゴリクス（一般名）の開発推進

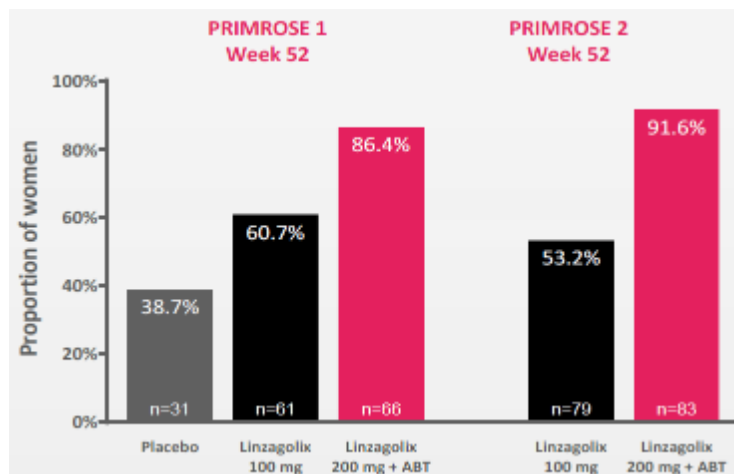
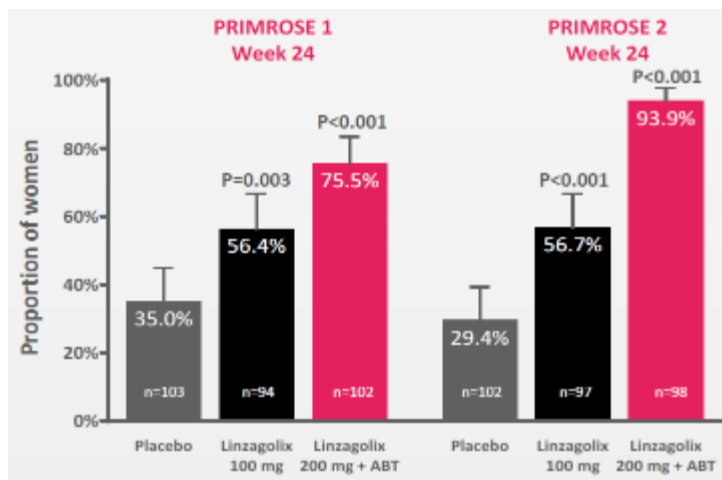
## 《子宮筋腫を対象とした海外第Ⅲ相臨床試験 PRIMROSE 1&2 試験》

### ➤ 試験デザイン



### ➤ 試験結果

＜ 有効性（主要評価項目：月経出血量が80mL以下かつベースラインから50%以上減少した症例の割合） ＞



[ObsEva社公表資料]

# PEGASUS期間中の発売・申請予定製品

				PEGASUS計画期間		
年度		2017	2018	2019	2020	2021~2024
国内	泌尿器		ヘオーバ® (過活動膀胱)	ミニリンメルト®25µg/50µg (男性における夜間多尿による夜間頻尿)	ミニリンメルト®60µg/120µg/240µg (＜共通＞中枢性尿崩症、＜120µg/240µg＞尿浸透圧あるいは尿比重の低下に伴う夜尿症)	
	腎・透析		ピートル®顆粒 (高リン血症)  ナルフラフィンGE (透析患者におけるそう痒症)	ダルベポエチン アルファBS (腎性貧血)		ジフェリケファリン/MR13A9 (透析患者におけるそう痒症)
	糖尿病			グルバス®OD (速効型インスリン分泌促進薬/食後過血糖改善薬配合剤)	マリゼブ® (持続性選択的DPP-4阻害薬)	
	消化器	レクタブル® (潰瘍性大腸炎)				カロテグラストメチル/AJM300 (潰瘍性大腸炎)
	婦人科	ジエノゲストGE (子宮内膜症)				
	希少疾病				アバコバン/CCX168*【申請済み】 (顕微鏡的多発血管炎、多発血管炎性肉芽腫症)	ロバチレリン/KPS-0373 (脊髄小脳変性症)  ホスタマチニブ/R788* (慢性特発性血小板減少性紫斑病)  CG0070 (筋層非浸潤性膀胱がん)
海外			レモグリフロジン (2型糖尿病/SGLT2阻害薬) (ライセンスによりインドにおいて発売)	リンザゴリクス/OBE2109【欧州申請済み】 (子宮筋腫)	リンザゴリクス/OBE2109 (子宮筋腫(米国)/子宮内膜症)	

注) 青字：発売済み、赤字：指定難病、\*：希少疾病用医薬品指定

# 希少疾病治療薬のマーケティング体制

## ◆ PEGASUS期間中に申請・発売を見込む希少疾病治療薬

一般名 ／開発番号	開発ステージ	予定適応症
アバコパン ／CCX168	承認申請中	顕微鏡的多発血管炎、多発血管炎性肉芽腫症
ロバチレリン ／KPS-0373	申請準備中	脊髄小脳変性症
ホスタマチニブ ／R788	第Ⅲ相	慢性特発性血小板減少性紫斑病
CG0070	第Ⅲ相	筋層非浸潤性膀胱がん

- 後期開発ステージに指定難病や希少疾病領域のプロジェクトをラインナップ
- 患者さんが適切な治療を受けられるよう、限られた施設・専門医に対する専門的かつ高度な情報提供体制を構築する

希少疾病領域におけるアバコパン等新製品の円滑な市場導入に向け、医薬営業本部内に「レアディジーズプロジェクト」を新設（2021年4月）

- 希少疾病領域マーケティングの立案・展開
- MRとの協働による専門医、メディカルスタッフへの情報提供体制構築

希少疾病の新たな治療選択肢となる新薬を円滑に医療現場に提供することにより、難病に苦しむ患者さん、医療の向上への一層の貢献を図る

# 経営環境の変化に対応する経営基盤の強化

## 経営理念

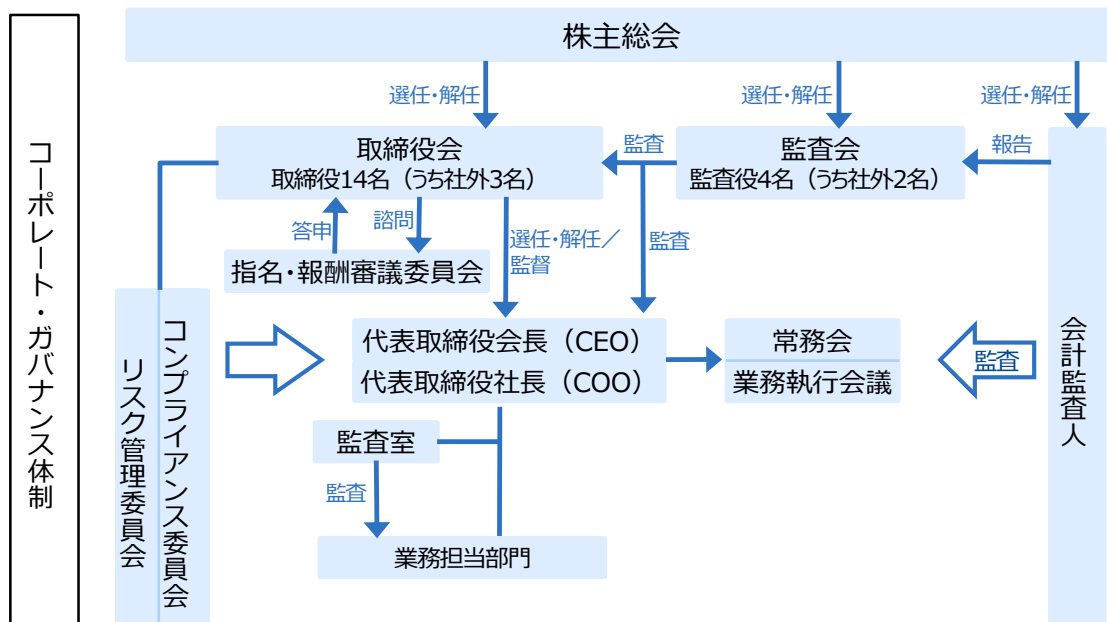
「純良医薬品を通じて社会に貢献する」「会社構成員を通じて社会に奉仕する」

### － 経営ビジョン －

世界の人びとの健康に貢献できる独創的な医薬品を開発し提供する創薬研究開発型企業を目指す

### － キッセイ薬品行動憲章 －

私たちは、医薬品をはじめとする、優れた製品を開発し提供することにより、世界の人びとの健康及び医療の向上に貢献します



経営理念、経営ビジョンの実現に向けて、経営環境の変化に対応し中期経営計画「PEGASUS」を推進することにより、経営基盤を強化するとともに、企業価値の向上を図る

# 株主還元

## ◆ 利益配分に関する基本方針

将来にわたる経営基盤の確保に留意しながら安定的な配当を継続

## ◆ 自己株式の取得

資本効率の向上と株主還元の充実を図る一環として機動的な実施を検討

	2017年 3月期	2018年 3月期	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期 (予想)
1株当たり 年間配当	46円	48円	50円	52円	54円	56円
自己株式の取得 (取得株式数)	16億円 (61万株)	44億円 (160万株)			13億円 (60万株)	
自己株式の消却 (消却株式数)		56億円 (250万株)				

明日のいのちの為に。  
くすりの未来を切り拓く。



本資料記載の将来見通しは、既存の情報や様々な動向についてのキッセイ薬品による2021年5月時点での分析に基づいています。実際の業績は、事業に及ぼすリスクや不確定な事柄により見通しと異なることがあります。

医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。